様式2

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
（各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略1　　地域での基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場をつくる

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 過年度 | 実績額 | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | ④ 本事業前の実績値 H28実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 H29実績値 | 事業効果 | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| みらい農業センター | 1 | 新規就農者確保・育成等総合支援事業（農業経営者育成事業） | 【①新規就農研修生の育成】農業機械の操作技術向上、栽培技術・知識の習得、営農・資金計画の樹立に向けた実践的な研修を実施するとともに経営継承方式による就農を円滑に進めるための総合的な支援体制を構築する。【②農業後継者の育成】冬期農業講座を開催し、農業技術力・経営能力の向上を図る。 | H28年度実績額 | 5,536,083 | 指標① | 新規就農研修生 | 1 | 戸 | H30.3 | 1 | 1 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | ①経営継承方式による新規就農は、資産一括譲渡により新規就農者、離農者、双方にメリットのある仕組みであり、経営基盤を持たない新規就農者の経営安定化が早期に図られる手法である。また、新規就農者の確保は今後の農地流動化及び農家戸数減少対策となっていることから事業効果は高い。（H29年度.研修生：1名、研修3年目を計画通り実施）<br>②本年度における冬期農業講座は講座内容の充実化が図られたことにより受講者数で45名となり概ね指標値に達したことから事業効果は高い。実績値が指標値を下回った理由は受講対象農家子弟が前年より少なかったことによるものである。 | （1）新規就農予定者の農業研修支援事業補助金：2,200,000円<br>（2）各種研修等報償：15,000円 | 新規就農研修生　1戸<br>冬期農業講座受講者数　延べ45名 | | | 事業の継続 | 実績値から本事業が効果的であることから事業を継続し、地域農業の担い手確保及び人材育成を更に強化する。 |
| | | | | | | 指標② | 冬期農業講座受講者数 | 50 | 名（延べ） | H30.3 | 64 | 45 | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 5,053,027 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 295,000 | 指標① | 新規就農研修生 | 1 | 戸 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 指標② | 冬期農業講座受講者数 | 100 | 名（延べ） | H31.3 | | | | | | | | | | |
| みらい農業センター | 1 | 新規就農者確保・育成等総合支援事業（農家青年配偶者対策事業） | 農業センター実習と農家実習を自由に組合せできる仕組みの農業体験実習生受入事業は担い手対策協議会を通じて実施し、農業に興味を持った女性実習生を積極的に受入する中で、農業体験を通した農家青年との交流の場を自然な形で設定し、農家青年の成婚率向上を図る。 | H28年度実績額 | 6,719,996 | 指標① | 農業体験実習生 | 3 | 名 | H30.3 | 4 | 3 | 指標値を達成し事業効果があった | ・農業体験実習生3名を受け入れし、農業センターでの実習に加えて農家宅での農家実習も実施した。地域農家青年との交際には発展しなかったが、地域農業者との交流の場を設定することができた。平成27年度、実習生のうち1名が実習終了後、本町へ移住を果たし、実習中に親交のあった農家青年との交際に発展し、平成29年度に成婚に至った例を挙げると事業の継続化により、その効果が現れることから事業効果は高い。 | 農業担い手対策協議会負担金：982,810円 | 農業体験実習生　3名 | | | 事業の継続 | 実績値から本事業が効果的であることから事業を継続し、農業体験の場を提供する中で農家青年との交流の機会を設定し、成婚率向上を図る。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 9,796,896 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 6,649,000 | 指標① | 農業体験実習生 | 3 | 名 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| みらい農業センター | 1 | 新規就農者確保・育成等総合支援事業（農業振興事業） | 独自性と有益性を兼ね備えた新規作物や新たな栽培技術を地域へ提案、普及するべく各種試験栽培に取り組み、研究・調査を実施する。また、新たな特産品として知名度が高まりつつある「伏せ込みアスパラガス栽培」については、早期出荷と高収化の両立化を図る難題に取り組んでおり、引き続き研究・調査を継続するとともに関係機関と連携し、生産者戸数増加に向けた普及推進を図る。 | H28年度実績額 | 10,498,150 | 指標① | 伏せ込みアスパラガス栽培戸数 | 7 | 戸 | H30.3 | 7 | 7 | 指標値を達成し事業効果があった | ・7戸の生産者が栽培する日本唯一の11月初旬出荷のアスパラガス冬季栽培は、その希少価値が高く評価され、破格の価格で流通している。本町農業は大規模畑作経営が主体の地域であり元来、施設園芸作物は普及しにくい環境の中、本町農業史上初の冬季野菜生産となる7戸は異例であり道内、最多戸数である。よって、その事業効果は高い。また、美幌高校でも研究課題として同栽培に取り組んでおり本年から、みらい農業センターの仲介によりJA出荷が開始された。なお、平成29年度産実績は過去最高の収量、販売取扱額（10,099千円）となった。 | 消耗品費：3,728,879円 | 伏せ込みアスパラガス栽培戸数　7戸 | | | 事業の継続 | 実績値から本事業が効果的であることから事業を継続し、道内最先端の冬季生産アスパラガス栽培技術の研究に取り組み、更なるブランド力向上を下支えする。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 10,338,810 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 11,568,000 | 指標① | 伏せ込みアスパラガス栽培戸数 | 5 | 戸 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 農政担当 | 2 | 地域しごと支援事業 | 本町においても農業後継者不足が問題となっており、農業後継者確保が課題となっていることから、経営継承できる農家子弟と農外から新規参入する新規就農者に対し、就農支援を行うことにより、農業後継者確保と本町農業の持続的発展を図ります。 | H28年度実績額 | 9,167,327 | 指標① | 新規就農者数<br>新規農業従事者数 | 3 | 人 | H30.3 | 9 | 8 | 指標値を達成し事業効果があった | 新規就農者や新規農業従事者に対し就農支援を行うことにより、農業後継者を確保することが出来た。 | （1）就農奨励補助金　　：7,351,644円<br>（2）農用地賃貸料補助金：　147,196円<br>（3）経営安定補助金　　：　　3,264円<br>（4）青年就農給付金　　：1,500,000円 | 〇新規農業従事者8名<br>学卒　2名、 Uターン　6名 | | | 事業の継続 | 新規就農者や新規農業従事者等を確保し、本町農業の持続的な発展を図るため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 9,002,104 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 14,223,000 | 指標① | 新規就農者数<br>新規農業従事者数 | 5 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 森林担当 | 3 | 森林認証材活用促進事業 | 付加価値促進を図るために森林認証材買取時に上乗せを行い、認証の普及促進を図る。（補助率1/2、事業者の連携が条件、上限250万円） | H28年度実績額 | 1,912,457 | 指標① | 認証材の生産量 | 5,800 | m3 | H30.3 | 4,398 | 1,687 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 森林認証材を、住宅供給のため計画的及び使用量調整を行い、産出したため、指標値を下回ったものです。<br>なお、認証材住宅は着実に効果を上げています。 | 製材：1,266.180m3×1,000円×1／2<br>ダンネージ材：94.300m3×600円×1／2<br>バルブ材：326.520m3×400円×1／2<br>皆伐：3契約 | 計画新築戸数が減となったことにより、産出量を調整したことにより、指標値が大幅に下回った。 | | | 事業の継続 | 実績値により、本事業が効果的であったため、継続的な取組をすることで、森林認証の普及促進を図って行きます。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 726,684 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 2,500,000 | 指標① | 認証材の生産量 | 5,800 | m3 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 森林担当 | 4 | 美幌町産材活用促進事業 | 美幌町産FSC森林認証材の利用促進により、森林資源の地産地消の推進・町内経済の活性化・町内住宅の良質な住環境整備を図る。 | H28年度実績額 | 8,280,000 | 指標① | 建築住宅戸数 | 20 | 棟 | H30.3 | 10 | 7 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 美幌町全体の住宅建築戸数が減少していますが、その中でも美幌町内で建築された森林認証材使用戸数は55%の認証材住宅で使用されているため、事業効果はありました。 | 補助金　6,880,000円<br>認証材使用量：　173.3296m3<br>町内工務店実施率：55%<br>（全体 20戸÷町内 11戸＝ 55.0%<br>内認証材使用戸数　7戸） | 建築住宅戸数・認証材使用量は、その年の状況で変わるため、増減はありますが、これを行うことにより事業効果・町内循環システム等の効果がありました。 | | | 事業の継続 | 実績値により、本事業が効果的であったため、対象拡充を図り、美幌町産FSC森林認証材の利用促進及び町内住宅の良質な住環境整備を更に発展させる |
| | | | | | | 指標② | 森林認証材使用量 | 400 | m3 | H30.3 | 212 | 173 | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 6,880,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 17,400,000 | 指標① | 建築住宅戸数 | 15 | 棟 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 指標② | 森林認証材使用量 | 275 | m3 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 森林担当 | 5 | 森林認証材ブランド化推進事業 | 美幌町産FSC森林認証材を使用して、価値の高い建材等にするため、新たな乾燥技術（コアドライ）を取り入れ、FSC認証材の地域ブランド化を目指し、販路開拓及び町内外へ普及・PRを図る。（平成27年度国の補正予算に伴い、町でも平成27年度繰越明許費である。）また、美幌町産FSC森林認証材を使用した新製品の開発を行う。 | H28年度実績額 | 8,669,000 | 指標① | 新開発製品 | 10 | 品 | H30.3 | 19 | 10 | 指標値を達成し事業効果があった | 新製品の開発により、多分野で認証材のPRに貢献できたため。 | FSC森林認証材を使用した新製品を開発することにより、認証材の活用普及促進及び地域ブランド化を図る。<br>・木製品開発委託　1,000,000円 | 新規開発製品<br>木琴、演台、子ども用机・椅子、スツール等 | | | 事業の継続 | FSC認証コアドライ材を町内外の新築住宅へ普及させ地域循環を図っていくとともに、新製品のPR活動を 町内外での普及促進を図った行きます。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 1,000,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 246,000 | 指標① | 町内外へのPR活動 | 4 | 回 | H31.3 | | | | | | | | | | |

様式2

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
## （各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略1　　地域での基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場をつくる

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） | | | | | ④ 本事業前の実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 | | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 | | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 過年度 | 実績額 | 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | H28実績値 | H29実績値 | 事業効果 | | | | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 森林担当 | 6 | はじめての木づかい事業 | 1歳を迎えるお子さんを対象に美幌町産FSC森林認証材を使用した木製品をプレゼントすることで、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」感情豊かな心を育む木育活動を推進する。 | H28年度実績額 | 604,800 | 指標① | 木製品贈呈数 | 140 | 人 | H30.3 | 112 | 108 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 対象となる1歳児の減少により指標値を下回っているが、対象者に大変喜ばれ、好評を得ているため事業効果は高い。 | 消耗品費　583,200円<br>内訳：積み木セット　30コ<br>車バズルセット　24コ<br>魚釣りセット　24コ<br>お椀セット　9コ<br>積み木（100ピース）　21コ　計108個 | 1歳を迎える子ども　108人<br>住所異動（転出等）を除けば、対象者に対してプレゼントを贈呈できた。 | | | 事業の継続 | 実績値により、本事業を通して木育活動を推進し新商品開発を視野に入れ、美幌町産森林認証材で作られた木製品を発展させる。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 583,200 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 873,000 | 指標① | 木製品贈呈数 | 270 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 森林担当 | 7 | 林業館管理事業 | 美幌林業館きてらす（美幌駅併設）の維持管理を行う。（平成27年度は、林業館改修事業として、当該施設の改修を行い「木育ひろば」を設置するものも含む） | H28年度実績額 | 3,098,000 | 指標① | 来館者数 | 26,000 | 人 | H30.3 | 29,638 | 23,805 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | きてらすオープンから2年半が経過し、利用者数に落ち着きは見られるが、依然町外からの利用者も多く、改修効果は出ている。 | 施設管理委託料　3,296,000円<br>「きてらす」維持管理用<br>消耗品・備品等　308,000円 | 平成29年度来館者数　23,805人 | | | 事業の継続 | 実績値により、本事業は非常に効果的であったため、来館者の把握及びニーズを収集し、より安心安全な木育広場を提供できるように更に維持管理を発展させる。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 3,603,993 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 3,495,000 | 指標① | 来館者数 | 27,000 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 観光担当 | 9 | 観光振興事業 | 観光入込客数のさらなる増加のため、各関係団体との連携を図り、美幌町の個性や特色を活かした観光振興施策を展開し魅力ある観光地づくりを実施するとともに、さらなる情報発信を図る。 | H28年度実績額 | 3,113,607 | 指標① | 観光入込客数 | 810,000 | 人 | H30.3 | 712,930 | 726,000 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 指標を下回ったものの平成29年度に町が美幌峠レストハウス2階の改修を実施し、北海道が園路及び外トイレの改修を実施することができた。今後の観光客の満足度向上が期待される。<br>また、平成29年度に美幌町観光まちづくり協議会が設立され、新たな展開が予定されていること、美幌観光物産協会が中心となり進められている屈斜路外輪山トレイルルートの開発も検証段階に入ったことなど新たな取り組みが進められており、入込客数の増加につなげたい。 | PR報償費　10,185円<br>観光物産宣伝研修報償費　830,501円<br>旅費　122,500円<br>消耗品費　53,059円<br>印刷製本費（パンフレット・ポスター）1,179,360円<br>広告料　247,700円<br>筆耕翻訳料　151,600円<br>協議会等負担金　1,779,060円 | 平成29年度は、台風の影響等で入り込み客数が落ち込んだ前年度と比較すると微増した。峠園路や外トイレ、レストハウス2階の工事を実施したことが、入込客数が伸び悩んだ原因と推測される。 | | | 事業内容を見直し発展させる | 昨年度改修した美幌峠レストハウス2階を有効に活用するとともに、昨年度発足した美幌町観光まちづくり協議会や観光物産協会と連携し、事業を展開していく。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 4,373,965 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 3,227,000 | 指標① | 観光入込客数 | 810,000 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 観光担当 | 10 | 空港交通利便性向上事業 | 女満別空港発、美幌駅経由美幌峠行きバスについて、継続運行を図るとともに利用促進に向けて情報発信に努める。 | H28年度実績額 | 763,600 | 指標① | 利用者 | 400 | 人 | H30.3 | 384 | 341 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 平成29年度も、目標値の達成はできなかったものの、観光シーズンに美幌峠へ向かう観光客の足を確保できたことは、一定の効果があったものと思われる。 | バス運行維持負担金<br>756,000円<br>（株）阿寒バス（株） | 8月1日～9月30日（61日間）、<br>1日1往復の利用者数 | | | 事業の継続 | 関係機関と協議し、周知方法など改善しつつ、さらにたくさんの方が利用しやすくなるよう検討する。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 756,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 600,000 | 指標① | 利用者 | 200 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 広報担当 | 11 | まちのセールスマン事業 | 美幌町の景観や公共施設、特産品などを掲載したミニPR紙を作成し、美幌町民が町外・道外で名刺等を配る際に活用してもらい、町全体で美幌町のPRを図る。 | H28年度実績額 | 453,600 | 指標① | 町民配布枚数 | 20,000 | 枚 | H30.3 | 9,610 | 4,194 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 平成28年度に比べて団体等からの配布枚数と、個人の利用者数が減っている。（団体等約3000枚の減、個人利用者21名→5名）<br>町民や企業への事業周知方法を検討し、利用者の増加を図りたい。<br>昨年から引き続き利用している方や、新規に申込された方もいるので、事業効果は出ている。 | 印刷製本費　：　340,200円 | 平成29年度<br>名刺作成枚数　9,0000枚<br>配付枚数　4,194枚 | | | 事業の継続 | 引き続き新聞や広報、HP等による町民への事業周知を行い、より多くの町民に利用してもらう。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 340,200 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 378,000 | 指標① | 町民配布枚数 | 10,000 | 枚 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 政策担当 | 12 | 広域連携交流推進事業 | オホーツク15町村と東京23区（江東区）の都市部との連携により、農林水産物を通した消費地との交流・PRや地域に密着した体験観光・お試し暮らし等を通じた交流人口の増加を推進する。<br>また、オホーツク地域が一体となって、イメージ戦略を推進することにより、都市部への知名度向上を目指し、交流人口の増加や物産交流へとつなげていく。 | H28年度実績額 | 0 | 指標① | 連携事業取組件数 | 2 | 件 | H30.3 | 1 | 2 | 指標値を達成し事業効果があった | 29年度は東京都江東区とオホーツク管内15町村が交流連携事業として、江東区での環境フェア出展、江東区職員のオホーツク管内視察研修を行い、今後の継続と推進について協議を行った。<br>また、オホーツクのイメージ発信事業として、「オホーツクール」キャンペーンを行い、お笑い芸人の村本氏を起用し、様々な角度からオホーツクの情報を発信した。 | オホーツクイメージ戦略推進委員会負担金<br>556,000円 | 平成29年6月4日　江東区環境フェア<br>平成30年1月29日～31日　江東区職員のオホーツク管内視察研修<br>村本氏によるオホーツク宣伝WEBムービーの発信<br>平成29年12月7日村本氏と東京農大生による公開討論会の開催 | | | 事業の継続 | 管内市町村と連携し、更なる展開を図る。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 556,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 556,000 | 指標① | 連携事業取組件数 | 2 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 商工担当 | 13 | 元気な起業家応援事業 | ・起業・創業に必要な経費の支援（補助率2/3）<br>・空き店舗家賃補助（補助率10/10）<br>＊上記2項目の併用を可とし、合わせて200万円の限度額 | H28年度実績額 | 8,000,000 | 指標① | 起業・創業支援件数 | 3 | 件 | H30.3 | 4 | 1 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 当該年度内の起業件数は1件であったものの相談件数は10件あり、翌年度以降の起業に向けて進行中 | 起業化支援事業補助金：2,000,000円 | 卸業　1件 | | | 事業の継続 | 雇用の創出により地域経済の活性化が図られるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 2,000,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 4,000,000 | 指標① | 起業・創業支援件数 | 2 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 商工担当 | 14 | 中小企業利子補給等制度のうち新規起業家融資制度 | 中小企業を支援するための制度のうち、新規起業家を応援するための事業。起業する方の支援として、運転資金2,000万円、設備資金3,000万円以内の融資を実施する。また、利子補給20%、保証料100%を償還年次分割給付を実施する。 | H28年度実績額 | 0 | 指標① | 融資件数 | 2 | 件 | H30.3 | 0 | 1 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 融資件数は1件であったものの、当該制度を維持することにより新規起業への後押しが図られると考える。 | 〇設備投資資金：4,000,000円<br>〇中小企業融資利子補給等補助金：（H30年度支出）<br>利子補給：16,500円<br>保証料：21,500円 | ソフトウエア業　1件 | | | 事業の継続 | 制度の継続により起業・創業支援を図る。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 4,000,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 預託額（316,000千円）の4倍枠 | 指標① | 融資件数 | 2 | 件 | H31.3 | ※融資は預託金から支払われる | | | | | | | | | |

様式2

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
（各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略1　　地域での基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場をつくる

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） | | | | | ④ 本事業前の実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 | | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 | | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 過年度 | 実績額 | 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | H28実績値 | H29実績値 | 事業効果 | | | | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 商工担当 | 15 | がんばる商店街応援事業 | 専門家による経営指導、店舗のイメージアップに要する経費への支援；補助率1/2、上限100万円 | H28年度実績額 | 19,156,000 | 指標① | リフォーム件数 | 15 | 件 | H30.3 | 27 | 20 | 指標値を達成し事業効果があった | 店舗機能の維持・向上とともに、店舗のイメージアップにより、商店街における集客数が増加が図られ、今後においても経営の安定化が見込まれる。 | 店舗リフォーム促進支援事業補助金<br>：　15,231,000円 | 〇飲食業　9件<br>〇理美容業　2件<br>〇販売業　5件<br>〇製造業　1件<br>〇資材業　1件<br>〇宿泊業　1件<br>〇フィットネス業　1件 | | | 事業の継続 | 商店街の活性化により、商工業者の所得向上が図られるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 15,231,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 15,000,000 | 指標① | リフォーム件数 | 15 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 商工担当 | 16 | 美幌町商店街活性化事業<br>↓<br>商店街イベント事業（H29年度） | 商店街を活性化するためのイベントへの支援 | H28年度実績額 | 2,210,000 | 指標① | ポイントシール消費枚数 | 120,000 | 枚 | H30.3 | ― | 152,200 | 指標値を達成し事業効果があった | 両イベントとも多くの町民が参加し、販売促進へと繋がった。 | 商店街イベント事業補助金<br>：3,050,000円 | 〇連合商店会連合大売り出し<br>〇スマッピーカードびほろ年末年始大売り出し | | | 事業の継続 | 商店街の活性化により、商工業者の所得向上が図られるため。 |
| | | | | | | 指標② | 抽選会来場者数 | 1,500 | 人 | H30.3 | | 1,649.0 | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 3,050,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 2,810,000 | 指標① | イントシール消費枚数 | 120,000 | 枚 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 指標① | 抽選会来場者数 | 1,500 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |

様式２

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
## （各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略２　「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） | | | | | ④ 本事業前の実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 | | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 | | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 過年度 | 実績額 | 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | H28実績値 | H29実績値 | 事業効果 | | | | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政策担当 | 1 | 移住促進事業 | ①移住促進のPR：首都圏で開催される移住促進イベントの参加経費<br>②「ちょっと暮らし」のための施設整備：空き家となっている教員住宅の改修及び必要な備品等の整備 | H28年度実績額 | 1,019,874 | 指標① | 移住体験者 | 8 | 組 | H30.3 | 8 | 13 | 指標値を達成し事業効果があった | 30年1月に30年4月以降の申込み受付を行い、抽選の結果その時は5組の体験者が決まったが、情報の更新や移住サイトへ掲載し、更に道の「北海道移住希望者等マッチング事業」に参加し、移住体験者を迎えたなどにより、最終的に13組の体験者につながった。<br>また、「北海道移住希望者等マッチング事業」の体験者1名が、30年2月に美幌町へ移住した。 | 報償費：20,977円<br>移住フェア参加等旅費：230,320円<br>消耗品費：18,453円<br>需用費（光熱水・燃料）：172,049円<br>修繕費（移住体験住宅）：12,420円<br>役務費（通信・手数料）：69,792円<br>委託料：119,282円<br>使用料：25,320円<br>負担金（移住関係協議会費、移住フェア参加費）：200,000円 | 【移住体験者】<br>北海道深川市1組、<br>北海道せたな町1組、<br>北海道札幌市1組<br>京都府1組、山口県1組、<br>愛知県2組、兵庫県1組、<br>東京都4組、千葉県1組、<br>※参考【移住者】<br>千葉県1組（単身50代） | | | 事業の継続 | 移住体験住宅の魅力を高めて更なる交流人口の増加を目指し、一方で仕事とマッチングさせた本気の移住者の獲得を目指す。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 868,613 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 987,000 | 指標① | 移住体験者 | 8 | 組 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 政策担当 | 4 | 空き家対策 | 適切に管理が行われていない空き家が防災・衛生等の生活環境に影響を及ぼすため、空き家の発生抑制や危険な空き家の解消を促す。 | H28年度実績額 | 0 | 指標① | | | | | | － | | | | | | | | H29年度に実施した現地調査等を踏まえ、H30年度には空家対策協議会を設置するとともに空家等対策計画を策定し、総合的かつ計画ウ的な対策の推進を図る |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 0 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 2,416,000 | 指標① | 北海道空き家バンク登録棟数 | 5 | 棟 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 政策担当 | 6 | 政府関係機関の誘致 | 国が掲げる総合戦略の一つで、東京に集中している官公庁を地方へ移転させ、東京一極集中を是正し、リスクの分散を進めることを目的にしたもの。美幌町への誘致を推進する。 | H28年度実績額 | 0 | 指標① | 政府関係機関誘致数 | 1 | 機関 | H32.3 | 0 | 0 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 政府関係機関の移転要望については、27年度に行われた以降、国からの照会もない状況だが、美幌駐屯地の維持（増強含む）については陳情を続けており、現在のところ現状維持を保っている。 | | | | | 事業の継続 | 自衛隊関係機関を中心に、陳情・要望活動等を引き続き行う。<br>（30年度より長距離射撃訓練施設の設置に向けた陳情・要望活動を実施） |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 0 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 0 | 指標① | 政府関係機関誘致数 | 1 | 機関 | H32.3 | | | | | | | | | | |

様式2

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
## （各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略3　　このまちで出会い結婚し、子どもを生み育てたいという希望をかなえる

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） | | | | | ④ 本事業前の実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 | | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に） ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 | | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 過年度 | 実績額 | 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | H28実績値 | H29実績値 | 事業効果 | | | | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 戸籍年金担当 | 2 | ピンクの婚姻届事業 | 婚姻届を出すカップルに、ちょっとかわいいピンク色の婚姻届を美幌町産材で作られた木製フォルダに入れてお渡しする。またサービスで写真撮影を行い、町産材利用促進や美幌町を応援してもらうことを目的としている。 | H28年度実績額 | 540,000 | 指標① | 婚姻届出数 | 100 | 件 | H30.3 | 91件 | 69件 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 婚姻数の減少のため指標値を下回っているが、対象者に大変喜ばれ、好評を得ているため、効果は高い。 | 報償費　324,000円 | 婚姻届出数　69件<br>（FSC認証材婚姻届フォルダ　69個贈呈） | | | 事業の継続 | 対象者から好評を得ているため、PR等を行い、今後も継続する。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 324,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 432,000 | 指標① | 婚姻届出数 | 100 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 健康推進担当 | 4 | 妊婦一般健康診査等交通費補助事業 | 妊産婦の心身の健康の保持及び家庭の経済的負担の軽減を目的に、妊娠に係る健康診査及び出産のため町外の医療機関に通院する交通費を助成（1,080円/1回、15回を上限） | H28年度実績額 | 1,327,320 | 指標① | 妊婦一般健康診査等交通費補助人数 | 111 | 人 | H30.3 | 110人 | 116人 | 指標値を達成し事業効果があった | 出産に係る費用を助成することにより、妊産婦家庭の経済的負担を軽減し、子育て支援が図られた。 | 妊婦一般健康診査等交通費補助金：1,452,600円 | 申請者数　116人<br>補助対象回数　健康診査 1,246回／出産準備 99回 | | | 事業の継続 | H30年度より新規に実施する妊娠前の不妊治療への補助も含め、引き続き補助対象者に対し制度の周知をすることで、今までどおり対象者全てが申請するよう事業を進めていく。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 1,452,600 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 1,685,000 | 指標① | 妊婦一般健康診査等交通費補助人数 | 102 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 健康推進担当 | 5 | 産後1か月健康診査補助事業 | 母子の心身の健康の保持及び対象となる家庭の経済的負担の軽減のため、産後1か月健康診査を受診するための費用及び受診に要する交通費を助成（5,000円） | H28年度実績額 | 520,000 | 指標① | 産後1か月健康診査補助人数 | 104 | 人 | H30.3 | 104人 | 105人 | 指標値を達成し事業効果があった | 産後1か月の健診に係る費用を助成することにより、対象家庭の経済的負担を軽減し、子育て支援が図られた。 | 産後1か月健康診査補助金：525,000円 | 申請者数　105人<br>（補助対象回数　105回） | | | 事業の継続 | H30年度より新規に実施する妊娠前の不妊治療への補助も含め、引き続き補助対象者に対し制度の周知をすることで、今までどおり対象者全てが申請するよう事業を進めていく。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 525,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 600,000 | 指標① | 産後1か月健康診査補助人数 | 96 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 国保 | 8 | 医師確保対策事業 | 民間の医師紹介サイト等を活用することで常勤医師の招聘を行い、医療の充実を図る。 | H28年度実績額 | 13,990,897 | 指標① | 常勤医師数 | 13 | 人 | H30.3 | 10 | 10 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 平成29年度に産婦人科、眼科の常勤医師の招聘はできなかったが、平成30年4月に1名の招聘ができた。<br>＜求めている常勤医師＞<br>産婦人科常勤医師：1名<br>眼科常勤医師：1名 | 医師募集広告掲載料　80,000円<br>医師募集サイト広告掲載料　1,026,000円 | ＜常勤医師＞<br>内科常勤医師：2名<br>循環器内科常勤医師：1名<br>呼吸器内科常勤医師：1名<br>総合診療科常勤医師：1名<br>整形外科常勤医師：1名<br>泌尿器科常勤医師：1名<br>小児科常勤医師：1名<br>外科常勤医師：2名 | | | 事業の継続 | 婦人科は30年4月から再開することとなったが、3月で1名退職した外科及び眼科の常勤化については町民のニーズがあるため、引き続き医師の招聘に努める。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 1,106,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 9,020,000 | 指標① | 常勤医師数 | 12 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 健康推進担当 | 9 | エンゼルサポート１２０事業 | 乳幼児を扶養している子育て世帯の保護者に対して、美幌町指定ごみ袋を支給することにより、世帯の経済的負担を軽減し、子育てを支援。 | H28年度実績額 | 51,030 | 指標① | エンゼルサポート120事業支給者数 | 132 | 人 | H30.3 | 131人 | 99人 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 乳幼児を扶養している子育て世帯の保護者に対して、美幌町指定ごみ袋を支給することにより、世帯の経済的負担を軽減し、子育ての支援が図られた。<br>(実績値が指標値を下回った理由)<br>・おむつの無料回収を開始したことにより、年度途中(H30.1月)で当事業を終了したため。 | エンゼルサポート120事業用消耗品：103,680円 | 申請者数　　99人<br>（支給枚数　9,430枚） | | | 予定通り事業終了 | 事業を終了したため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 103,680 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 0 | 指標① | | | | | | | | | | | | | | |

様式2

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
## （各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略3　　このまちで出会い結婚し、子どもを生み育てたいという希望をかなえる

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | ④ 本事業前の実績値 H28実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 H29実績値 | 事業効果 | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 児童支援担当 | 10 | 子育て支援対策事業 | 0歳児から2歳児までの民間保育所利用者に対し、保育料(町立保育所との差額分)を支援する。 | H28年度実績額 | 13,849,300 | 指標① | 保育料利用負担軽減者数 | 50 | 名 | H30.3 | 48 | 57 | 指標値を達成し事業効果があった | 民間保育所に通所している低年齢児(0～2歳児)及び多子世帯の保護者に対し、保育料の負担軽減が図られ、子育て支援対策が充実した。<br>制度拡大により、1,656,100円（12人分）補助が増えた。 | 民間保育園利用者補助金　18,377,400円 | 保護者57名(57世帯) | | | 事業の継続 | 町内全ての保育所においても多子軽減を実施しているが、今後も継続して実施し子育て支援を進める。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 18,377,400 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 24,964,000 | 指標① | 保育料利用負担軽減者数 | 60 | 名 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 児童支援担当 | 11 | 地域子育て支援センター事業 | 乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てサークルへの支援等を行う。 | H28年度実績額 | 4,352,207 | 指標① | 利用者延べ人数 | 8,000 | 名 | H30.3 | 7,844 | 8,347 | 指標値を達成し事業効果があった | 近年の一時預かりに対するニーズの増加に対応したことやセンター自由開放への利用者数の増加により利用実績が増えており、地域の子育て支援センターとしての役割を果たした。 | 臨時職員賃金　2,878,272円　旅　費　32,000円<br>需用費　490,073円<br>償還金　107,000円<br>共済費　449,763円<br>役務費　105,200円<br>報償費　86,400円<br>委託料　19,047円 | 延べ　8,347名<br>（親 3,380名　子 4,967名） | | | 事業内容を見直し発展させる | 子育て支援には必要な施設であり、今後もリピーターが増えるような魅力ある行事等を考える。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 4,167,755 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 4,642,000 | 指標① | 利用者延べ人数 | 8,000 | 名 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 児童支援担当 | 12 | 一時預かり事業 | 保護者や家族の病気、不定期に仕事をするなど、家庭での保育が困難になったときに、満1歳児以上就学前までの子を一時的に預かる。 | H28年度実績額 | 3,268,789 | 指標① | 一時預かり利用日数 | 350 | 日 | H30.3 | 439 | 566 | 指標値を達成し事業効果があった | 保護者の就労形態の多様化に伴う一時的な保育又は保護者の疾病や家族の疾病による付き添い等緊急時の一時的な保育のため、一時預かり事業を行うことにより、児童の福祉の向上が図られた。 | 臨時職員賃金　4,646,462円 | 利用児<br>・3歳児未満　546日<br>・3歳児　4日<br>・4歳以上児　16日 | | | 事業の継続 | 子育て支援には必要な事業であり、緊急的なセーフティーネットとしての役割を担い続ける。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 4,646,462 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 4,067,000 | 指標① | 一時預かり利用日数 | 450 | 日 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 児童支援担当 | 13 | 放課後児童健全育成事業 | 保護者が昼間就労・留守などにより保育が出来ない小学生の児童を対象に、適正な遊び場及び生活の場を与え、児童の健全育成と福祉増進を図る。 | H28年度実績額 | 31,410,703 | 指標① | 学童保育所利用者数 | 140 | 名 | H30.3 | 153 | 160 | 指標値を達成し事業効果があった | 保護者が昼間就労・留守などにより保育が出来ない小学生の児童の健全育成と福祉増進が図られた。 | 臨時・嘱託賃金　25,124,940円<br>共済費　3,479,626円<br>需用費　2,071,561円<br>役務費　276,140円<br>委託料　115,987円<br>旅費　7,500円 | 美幌小学校　70名<br>東陽小学校　63名<br>旭小学校　27名 | | | 事業内容を見直し発展させる | 昼間働く保護者が増えている傾向であり、児童の健全な育成のために必要な事業である。また、アンケートの結果により学年拡大実施の要望はあるため、実施に向けて協議・検討中である。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 31,075,754 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 32,885,000 | 指標① | 学童保育所利用者数 | 140 | 名 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 商工担当 | 14 | 子育て世帯応援事業 | 高校生以下の子どもを養育している方に対し、<br>(第1弾)プレミアム率50%の商品券2,500円（スマッピーカードチャージ額5,000円）×412セット<br>(第2弾)プレミアム率50%の商品券5,000円（スマッピーカードチャージ額10,000円×394セット | H28年度実績額 | 2,248,000 | 指標① | 商品券利用率 | 95 | % | H30.3 | 99.9 | 99.8 | 指標値を達成し事業効果があった | 町内商店の利用を促すため、プレミアム商品券を発行。<br>99.8%の利用率からも十分な消費喚起及び子育て世帯等への支援が図られた。 | 子育て世帯応援事業補助金：2,995,000円 | 商品券利用率　99.8% | | | 事業の継続 | 商店街の活性化により、商工業者の所得向上が図られるとともに、子育て世帯への支援により、経済的負担の軽減が図られるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 2,995,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 3,000,000 | 指標① | 商品券利用率 | 95 | % | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 健康推進担当 | 15 | 子育て世帯禁煙サポート補助事業 | 禁煙の取組を促し、たばこの害から治療者本人及び同居する子どもの健康を守るため、子育て世帯の喫煙者に対し、禁煙治療に要する費用の一部を補助 | H28年度実績額 | 53,300 | 指標① | 補助対象者数 | 20 | 人 | H30.3 | 7 | 2 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 本事業を禁煙へのきっかけとして、禁煙治療者に対し継続的な連絡を行い、治療者に禁煙への意識を維持してもらうことで成功へと導いており、禁煙成功者からの評価は高い。<br><br>（実績値が指標値を下回った理由）<br>・補助対象となる若い世代は健康に対する関心が低く、習慣的な喫煙者の多くは依存症であり、禁煙の動機付けが難しい。禁煙促進には地域全体として禁煙意識の醸成が必要であり、長期的な取り組みが必要。 | 子育て世代禁煙サポート補助金　11,200円 | 補助者数2名(4,500円×1名、6,700円×1名) | | | 事業の継続 | H30年度より、支援対象の子育て世帯を中学生までから高校生までに拡大し、たばこの害から治療者本人と特に健康上の配慮を要する高校生までの子供を守り、健康推進を図り続けるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 11,200 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 200,000 | 指標① | 補助対象者数 | 7 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 民生担当 | 16 | 乳幼児等医療費助成制度 | 乳幼児等の医療費に対し、保険制度が7割（8割）・北海道が1割（2割）・美幌町が0．5割を負担し、保健の向上と福祉の増進及び子育て世帯への経済的支援を行う。 | H28年度実績額 | 23,968,327 | 指標① | 乳幼児医療費受給者数（医療証の受給者数） | 811 | 人 | H30.3 | 882 | 827 | 指標値を達成し事業効果があった | 対象世帯及び転入世帯に対して医療証を配布し、経済的支援が図られた。 | 消耗品費　46,885円<br>印刷製本費　55,134円<br>扶助費　23,670,284円 | 小学生以下　825人<br>中学生　2人 | | | 事業内容を見直し発展させる | 子どもの保健福祉向上及び子育て世帯の経済的支援について、住民意向として対象年齢の拡大要望があるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 23,772,303 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 48,659,000 | 指標① | 乳幼児医療費受給者数（医療証の受給者数） | 2,035 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |

様式２

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
## （各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略４　住み続けたいと思える生活環境を整える

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） | | | | | ④ 本事業前の実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 | | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 | | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 過年度 | 実績額 | 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | H28実績値 | H29実績値 | 事業効果 | | | | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 商工担当 | 1 | 空き店舗活用事業 | 空き店舗を活用して新規企業・チャレンジショップ支援などを行い、街中に賑わいや活力を創出する。（空き店舗の月額家賃（上限8万円）の2分の1を、町と商工会議所が1年間補助） | H28年度実績額 | 0 | 指標① | 空き店舗活用件数 | 2 | 件 | H30.3 | 0 | 3 | 指標値を達成し事業効果があった | 当該制度により、中心市街地の空き店舗の減少が図られた。 | 空き店舗活用事業補助金：337,500円 | 〇飲食業2（スナック1・軽食喫茶1）<br>〇販売小売業1 | | | 事業の継続 | 空き店舗の解消を促進することにより商店街の活性化が図られるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 337,500 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 533,000 | 指標① | 空き店舗活用件数 | 2 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 商工担当 | 2 | 消費喚起プレミアム商品券発行事業 | プレミアム商品券を発行することにより地域の消費喚起を図る。<br>（第1弾）プレミアム率30%の商品券を発行。（スマッピーカードチャージ額5,000円で1,500円分の商品券）×1800セット<br>（第2弾）プレミアム率30%の商品券を発行。（スマッピーカードチャージ額10,000円で3,000円分の商品券）×900セット | H28年度実績額 | 6,143,000 | 指標① | 商品券利用率 | 95 | % | H30.3 | 99.9 | 99.9 | 指標値を達成し事業効果があった | 町内商店の利用を促すため、プレミアム商品券を発行。<br>99.9%の利用率からも十分な消費喚起が図られた。 | プレミアム商品券発行補助金 ：5,397,500円 | 商品券利用率　99.9% | | | 事業の継続 | 商店街の活性化により、商工業者の所得向上が図られるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 5,397,500 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 5,400,000 | 指標① | 商品券利用率 | 95 | % | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 指導担当 | 3 | 住宅リフォーム促進事業 | 住宅の改修に要する費用の一部を助成することにより、町民が安心して暮らすための居住環境の整備、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図る。<br>・50万円以上の改修工事に対して、費用の20%以内（限度額50万円）を助成 | H28年度実績額 | 51,839,000 | 指標① | 制度利用件数 | 130 | 件 | H30.3 | 155 | 94 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 平成23年度から実施した当該事業は、平成29年度までの7年間で、964件、約23億2千万円の工事契約高を積み上げており、住環境の整備並びに地域経済の活性化に寄与したものと考えている。<br>なお、当面100～150件/年程度の一定の需要を見込んでおり、その幅の中で年度により実績値にバラツキがあることはやむを得ないと判断している。 | 補助金：29,795,000円 | 制度利用件数　94件 | | | 事業の継続 | 本事業により、居住環境の整備が促進されるため |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 29,795,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 47,190,000 | 指標① | 制度利用件数 | 130 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 交通安全担当 | 4 | ワンコインバス、乗合タクシー等利用促進事業 | 地域住民の足となっている路線バス、ワンコインバス及び町が運行する混乗スクールバス等の維持確保や利便性向上に努めながら、公共交通の確保・維持を推進する。 | H28年度実績額 | 20,453,220 | 指標① | 用者数(H28.10～H29.9) | 36,000 | 人 | H29.9 | 30,967 | 33,294 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 人口減少に伴う全体的な利用者の減少や美幌高校線を利用する生徒の減少が影響していると考えます。<br>減少割合と指標減少割合が大きく乖離している要因には、国への補助申請のため高い目標値が設定されています。こうした状況の中、市内循環線バス停の変更やルートの一部見直しなどにより利便性の改善をしていますが、全体的に利用者の減少傾向に歯止めがかかっていません。今後も状況を見極め、利用者の要望等、改善を行います。<br>本事業は、民間バス事業者が主体であり、国・道と町の補助金によりバス会社の路線を維持確保しているもので、本来であればバス会社等がより一層の自助努力や改善に期待をしたいが、慢性的な運転手不足や、経営的にも運行便数の増や新たな路線は困難な状況です。<br>バス利用者の多くは高齢者や学生が中心ですが、新たな利用者の開拓等、バス会社と一緒に検討していきます。 | 29年度）<br>生活バス路線運行維持費補助金　23,514,180円<br>・阿寒バス：　市内循環線　9,219,000円<br>・網走バス：　網走－美幌線　4,562,000円<br>・北見バス：　北見－美幌津別線等　8,382,000円<br>・北交ﾊｲﾔｰ：　乗合ﾀｸｼｰ　1,351,180円<br><br>28年度）<br>生活バス路線運行維持費補助金　20,453,220円<br>・阿寒バス：　市内循環線　7,911,000円<br>・網走バス：　網走－美幌線　3,713,000円<br>・北見バス：　北見－美幌津別線等　7,730,000円<br>・北交ﾊｲﾔｰ：　乗合ﾀｸｼｰ　1,099,220円 | 利用者数（地域内フィーダー系統）<br>・市内循環線　28,840人<br>・美幌校高線　2,695人<br>・乗合タクシー　1,759人<br>計　33,294人<br>利用者数（地域間幹線系統等）<br>・網走－美幌線　17,943人<br>・北見－美幌津別線等　121,479人<br>計　139,422人<br><br>利用者数（地域内フィーダー系統）<br>・市内循環線　25,909人（前年比△ 1%）<br>・美幌校高線　3,388人（　〃　△ 8%）<br>・乗合タクシー　1,670人（　〃　△ 1%）<br>計　30,967人（　〃　△ 2%）<br>利用者数（地域間幹線系統等）<br>・網走－美幌線　17,572人（前年比△15%）<br>・北見－美幌津別線等　118,062人（　〃　△ 3%）<br>計　135,634人（　〃　△ 4%） | | | 事業の継続 | 利用実態の検証と住民ニーズを把握しながら、利便性の向上と利用促進を図り、公共交通の維持確保を推進する。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 23,514,180 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 27,815,000 | 指標① | 用者数(H29.10～H30.9) | 33,300 | 人 | H30.9 | | | | | | | | | | |
| 住民活動担当 | 5 | 美幌町まちづくり活動奨励事業 | 住民自らの知恵と行動により、まちづくり諸活動を奨励するもの。自治会や団体・組織を対象に地域の公共的課題を自主的かつ継続的に取り組む事業に支援し、その活動継続と発展を図るもの。 | H28年度実績額 | 439,000 | 指標① | 事業の利用件数 | 3 | 件 | H30.3 | 1 | 1 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 町民団体等が主体の事業に対して補助する提案事業型の補助金で、町民主体のまちづくりを期待する。今回実施の事業において交流の場として、まちなかの賑わいに効果があったと考える。<br>指標値を下回った理由に、年間予定しているソフト事業が2件分、ハード事業が1件分であるが、当該年度においてハード事業が1件のみで、ソフト事業は申請が無かったため。 | 補助金　902,000円 | 「北１商店街コミュニティ拠点施設整備事業」<br>空き店舗を地域のコミュニティ拠点とするための改修。カルチャースクールの開催など、まちなかの賑わいに寄与。 | | | 事業の継続 | 町民による自発的なまちづくり活動はこれからも重要であり、この活動に対する町の補助が必要であるため。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 902,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 2,000,000 | 指標① | 事業の利用件数 | 3 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 政策担当 | 6 | 美幌町まちづくり参画プロジェクト | 地域の学校を活用し、学生ならではの意見・アイディアによるまちづくり活動に支援することで、地域の未来を考え、まちづくりへの意識向上を図り、地元に残る若しくは帰ってくる学生を育成する。 | H28年度実績額 | 634,000 | 指標① | プロジェクト件数 | 2 | 件 | H30.3 | 1 | 1 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 美幌伝道大使として任命した美幌高校地域資源マテリアル班の学生が主体となり、地域資源を活かした循環型農業（養豚）の意味合い等を、保育園児や小学生に「食育」を通じて地域の魅力を発信できた。<br>また、地域資源マテリアル班が地元食材を生かしたオリジナル料理が、高校生チャレンジグルメコンテストでコーブさっぽろ賞を受賞し、町のPRを行うことができた。<br>なお、プロジェクトの１つである、「循環型農業テキスト（マンガ冊子）」を完成させることができなかったが、十分なPR活動を行えた。 | 補助金：246,588円 | ・食育（美幌・東陽保育園、旭小学校4年生）<br>・地元食材を生かしたオリジナル料理の開発<br>・上記オリジナル料理の商品化、販売活動　など | | | 事業の継続 | 学生を主体とした活動を継続すると共に、新たな掘り起こしにより学生の更なるまちづくり活動を支援する。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 246,588 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 1,000,000 | 指標① | プロジェクト件数 | 2 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 政策担当 | 7 | 地域おこし協力隊事業 | 都市地域から「地域おこし協力隊員」を募集し、一定期間、地域に居住して、地域のさまざまな課題について協力活動をしてもらい、地域への定住・定着を図る。 | H28年度実績額 | 1,517,400 | 指標① | 地域協力活動案件数 | 2 | 件 | H30.3 | 2 | 2 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 協力隊の地域活動は、林業振興と観光振興に関する案件とした。採用は、観光振興分野で1名のみの採用となったが、町初の協力隊を採用できた。 | 研修旅費：32,000円<br>委託費：1,485,000円<br>（北海道観光まちづくりセンター） | 【地域協力活動案件】<br>〇観光振興～新たな美幌の観光資源の調査、特産品や新たな観光メニューの開発等<br>〇林業振興～森林認証材やコアドライ材等を活用した木製品の研究、PR等<br>【面接者】<br>千葉県1名、札幌市2名、北見市1名　計4名<br>【内定者】<br>観光振興活動　1名（北見市） | | | 事業の継続 | 新たな地域協力活動を掘り起こし、地域の活性化及び人材育成を図る。 |
| | | | | | | 指標② | 協力隊員数 | 2 | 人 | H30.3 | 0 | 1 | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 1,517,000 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 5,847,000 | 指標① | 地域協力活動案件数 | 2 | 件 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 指標② | 協力隊員数 | 2 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |

様式2

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
## （各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略4　住み続けたいと思える生活環境を整える

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） | | | | | ④ 本事業前の実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 | | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 | | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 過年度 | 実績額 | 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | H28実績値 | H29実績値 | 事業効果 | | | | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政策担当 | 8 | 人材バンク事業 | 美幌町に縁があり、文化、芸術、スポーツ、経済界などで特技や資格を持った人材をリスト化し、まちでの行事や学習などで活躍してもらう。 | H28年度実績額 | 0 | 指標① | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 0 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | － | 指標① | － | | | | | | | | | | | | | |
| 教委・総務担当 | 9 | ICT教育環境整備事業 | 町内の小中学校でICT（情報通信技術）を活用し、確かな学力を育成する教育を推進します。 | H28年度実績額 | 17,131,000 | 指標① | 国の整備指針に基づくICT機器必要数 | 3 | 校 | H30.3 | 3 | 5 | 指標値を達成し事業効果があった | 国の整備目標に準じてタブレットPC、実物投影機等のICT機器を導入した。授業で活用されており、児童への教育効果が高まった。 | 小学校修繕料：　185,760円<br>小学校庁用備品：12,231,648円<br>小学校機械器具：2,962,814円<br>中学校修繕料：　426,600円<br>中学校機械器具：1,187,842円 | 美幌小学校：PC36台、液晶テレビ12台、iPad4台、実物投影機7台<br>東陽小学校：液晶テレビ14台、iPad4台、実物投影機5台<br>旭小学校：無線LAN、iPad3台<br>美幌中学校：実物投影機3台<br>北中学校：液晶テレビ9台、実物投影機3台、無線LAN | | | 事業の継続 | 整備計画に基づきICT機器を充足し、児童生徒の学力向上を図る。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 16,994,664 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 15,420,000 | 指標① | 国の整備指針に基づくICT機器必要数 | 5 | 校 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 学校教育担当 | 10 | 少人数学級推進事業 | きめ細かな学習指導環境を整えることを目的に、各小学校の全学年で35人学級を実現すべく、期限付教諭を任用する。 | H28年度実績額 | 12,710,953 | 指標① | 町費負担教員 | 1 | 人 | H30.3 | 3 | 0 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 平成29年度は町費負担教員を配置しなくても、すべての小学校の全学年で35人学級が可能となったことにより、一人一人の児童にきめ細かな指導を行うことができた。 | | | | | 事業の継続 | 今後も未来を担う子どもたちの学力向上を図るため、教育環境の整備を推進していく。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 0 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 5,617,000 | 指標① | 町費負担教員 | 1 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 学校教育担当 | 11 | 学力向上支援事業 | 一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図ることを目的に、小学校教育支援員を配置し、習熟度別学習を実施する。 | H28年度実績額 | 3,356,293 | 指標① | 教育支援員 | 3 | 人 | H30.3 | 2 | 3 | 指標値を達成し事業効果があった | 学習内容を確実に身に付けさせることができるよう、教育支援員を配置することにより、習熟度別少人数指導等のきめ細かな学習指導を行い、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が図られた。 | 社会保険料：48,928円<br>人夫賃等：4,795,468円<br>健康診断委託料：47,496円 | 配属先<br>美幌小学校　1名<br>東陽小学校　1名<br>旭小学校　　1名 | | | 事業の継続 | 今後も未来を担う子どもたちの学力向上を図るため、教育環境の整備を推進していく。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 4,891,892 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 5,521,000 | 指標① | 教育支援員 | 3 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 学校教育担当 | 12 | 博物館との連携事業 | 博物館の学芸員と教諭との連携により、美幌町の自然体験や観察会、工作教室を実施し、地域への郷土心の養成と特色ある授業を実施する。 | H28年度実績額 | 142,885 | 指標① | 連携事業実施校 | 5 | 校 | H30.3 | 5 | 5 | 指標値を達成し事業効果があった | 小中学校と博物館との連携による体験学習により、地域資源を活用した学校教育の充実が図られた。 | 報償費：18,000円<br>消耗品費：20,010円<br>原材料費：22,640円 | 小中学校（美小・東陽小・旭小・美中・北中）5校 | | | 事業の継続 | 今後も地域資源を活用した博物館との連携事業を推進していく。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 60,650 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 0 | 指標① | 連携事業実施校 | 5 | 校 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 学校教育担当 | 13 | 学生ボランティア学習サポート事業 | 夏季・冬季の長期休暇中の小中学生に東京農業大学の学生が勉強を教え、児童・生徒の学力向上を図る。 | H28年度実績額 | 57,800 | 指標① | 学習サポート事業参加人数 | 2,000 | 人 | H30.3 | 2,936 | 1,965 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 平成29年度は、夏季休業中において、大学の前期試験期間と重なるなど、派遣学生の確保が厳しい状況であったが、学生ボランティア1名の派遣が可能となり、学習サポートを行うことができた。しかし、1名のみの派遣となったため、全ての学校に派遣できず、指標値を下回る結果となったが、継続した学習習慣の定着が図られ、事業効果はあったものと考える。 | 報償費：6,655円<br>食糧費：2,800円<br>保険料：3,200円 | 美幌小学校　421人<br>東陽小学校　156人<br>旭小学校　　323人<br>美幌中学校　132人<br>北中学校　　933人 | | | 事業の継続 | 今後も基礎学力の向上と学習習慣の定着を図るため、学習サポート事業を継続していく。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 12,655 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 235,500 | 指標① | 学習サポート事業参加人数 | 2,000 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 住民活動担当 | 14 | 国際交流事業 | 平成4年からﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ・ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ地区と友好姉妹都市の関係が継続され、両地域における人材派遣として「高校生短期交換留学」を実施。<br>さらに隔年でｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ高校から短期留学の受け入れも行う。 | H28年度実績額 | 373,886 | 指標① | 留学生（美幌高校）の人数 | 2 | 人 | H30.3 | 2 | 1 | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 美幌高校からケンブリッジ高校へ短期留学を1名派遣した。ケンブリッジ高校への留学実施で、美幌と友好姉妹都市である地域との人的交流が継続でき、生徒自身においても将来を考える非常に良い機会となった。<br>（指標値を下回ったのは希望者が1名だったため）<br>また、美幌・ケンブリッジ友好姉妹都市調印20周年記念でケンブリッジよりワイパ地区評議会首長をはじめとする10名の訪問団が来町し町民や過去にケンブリッジを訪問した者などとの交流を深めた。 | 国際交流事業消耗品　3,524円<br>（留学レポート・エアメール用封筒等）<br>高校生短期交換留学事業負担金　366,042円<br>（渡航費用 及び授業料・・1名分）<br>ケンブリッジ訪問団交流負担金　332,860円<br>（訪問団の施設見学料、体験謝礼及び食事賄等） | 平成29年7月20日　出発～　8月10日　帰町<br>ケンブリッジ高校に美幌高校普通科2年の女子生徒1名が短期留学を実施。授業形態や生徒の積極性の違いを体験。この経験が帰国してから生徒自身の積極性を意識するきっかけとなった。<br>平成29年10月10日　来町～　10月14日　離町<br>ケンブリッジ訪問団10名が来町。町内の小中学校及び高校を訪問し児童生徒たちと、また訪問団との交流パーティーを開催し町民とも交流を深めた。 | | | 事業の継続 | 国際社会に対応する人員の育成は今後も必要であるため。 |
| | | | | | | 指標② | ケンブリッジ訪問団の来町人員 | 6 | 人 | H30.3 | — | 10 | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 702,426 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 892,000 | 指標① | 留学生（美幌高校）の人数 | 2 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |
| 教委・総務担当 | 15 | 美幌高校寄宿舎運営補助事業 | 美幌高校寄宿舎に入寮している生徒支援と、道内外から入学する生徒への寮確保を目的とし、寄宿舎の維持運営を図る。 | H28年度実績額 | 0 | 指標① | 入寮者数 | 6 | 人 | H30.3 | 10 | 8 | 指標値を達成し事業効果があった | 寄宿舎を維持するため、補助金を活用することにより、入寮者の生活の支援が可能となったほか、今後入学してくる入寮希望者の確保につながった。<br>また、入寮希望者が増えることによって美幌高校への入学者数の増加につながった。 | 補助金：721,452円 | 2月以降不足した寄宿舎の運営費を補助した。 | | | 事業の継続 | 遠方からの入学者の受け入れを可能とするために寄宿舎を維持し、新たに生徒募集のPR活動を行うことにより、道内外からの入学者を増やし、生徒数を確保する。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 721,452 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 0 | 指標① | | | | | | | | | | | | | | |
| 防災担当 | 16 | 防災対策事業 | 美幌町の地域に関わる防災に関し、災害予防を実施するにあたり、防災資機材を計画的に整備する。また、町民の防災意識の向上を図ることを目的に、地域と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施、家庭用備蓄の普及啓発など、防災体制の強化を図る | H28年度実績額 | 13,624,322 | 指標① | 防災訓練参加者数 | 100 | 人 | H30.3 | 135 | 189 | 指標値を達成し事業効果があった | 防災訓練については、地震を想定とした避難行動訓練を開催した。<br>また、昨年に引き続き、図上訓練を開催し、防災意識の向上が図られた。<br>防災資機材については備蓄計画に基づき計画的に整備し、個別配布用の非常用持出品を継続的に配布するなどの取組みにより、より一層の防災体制の強化が図られた。 | 防災無線保守点検　421,200円<br>防災情報配信システム保守等業務委託　1,080,000円<br>避難所等AED借上料　473,688円<br>個別配布用非常用持出品　5,134,320円<br>防災資機材保管倉庫設置委託料　343,980円<br>備品購入費（防災資機材等）　1,342,520円<br>その他　4,947,340円 | 防災訓練参加者数　旭地区　152名<br>図上訓練参加者数　37名 | | | 事業の継続 | 今後も継続して訓練の実施や防災資機材の整備をすすめ、防災・減災対策の強化を図る。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度実績額 | 13,743,048 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度予算額 | 20,562,000 | 指標① | 防災訓練参加者数 | 100 | 人 | H31.3 | | | | | | | | | | |

様式２

# 平成30年度　美幌版総合戦略に係るH29事業実施結果報告
（各事業における実績額及び事業効果等）

基本戦略４　住み続けたいと思える生活環境を整える

| 担当G | No | ① 対象事業の名称 | 事業内容 | ② 実績額 予算額 | | ③ 本事業における重要業績評価指標（KPI） | | | | | ④ 本事業前の実績値 | ⑤ 本事業終了後における実績値 | | ⑥ 事業効果（⑤）の評価理由（具体的に）※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由（原因）等についても記載願います | ⑦ 事業費総額（①）の内訳 ※「〇〇委託料：〇〇円」等の内訳を記載願います | ⑧ 指標値に対するH29実績値の内容 | ⑨ 外部有識者からの評価 | | ⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 過年度 | 実績額 | 指標 | | 指標値 | 単位 | 目標年月 | H28実績値 | H29実績値 | 事業効果 | | | | 事業の評価 | 外部有識者からの意見 | 今後の方針 | 今後の方針の理由 |
| | | | | 後年度 | 予算額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 防災担当 | 17 | 自主防災活動推進事業 | 各自主防災組織において、災害時に備えた設備を整えるとともに、町民と関係機関が連携した自主防災訓練及び地域避難訓練を実施し、日頃の防災意識の向上と防災体制の強化を図る。また、未設立団体への積極的な働きかけを行い設立、促進を図る。 | H28年度 実績額 | 250,000 | 指標① | 自主防災組織の結成率 | 73.75 | % | H32.3 | 85.47% | 82.90% | 指標値を下回ったものの事業効果があった（見込める） | 自治会連合会による訓練などをとおして、未設立自治会への働きかけなど、積極的な取組みは行ったものの、新規設立までには至らなかったが、新たに自主防災資機材及び自主防災資機材等収納倉庫の設置（1件）を行い、地域の防災体制の強化を図ることができた。<br>なお、自主防災組織の結成率算定方法の見直しにより、指標値を下回った。 | 自主防災資機材等購入補助金　799,864円<br>（資機材及び資機材等収納用倉庫） | 自主防災組織率　82.90%<br>算定方法（組織地域の世帯数÷全世帯数）<br>・見直し前…自主防災組織と自治会が同一の場合における組織地域の世帯数は自治会未加入世帯も含めない。<br>・見直し後…自主防災組織と自治会が同一の場合における組織地域の世帯数は自治会未加入世帯も含める。 | | | 事業の継続 | 今後も継続した働きかけを行い、防災・減災対策の強化を図る。 |
| | | | | | | 指標② | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H29年度 実績額 | 799,864 | 指標③ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | H30年度 予算額 | 850,000 | 指標① | 自主防災組織の結成率 | 86.20 | % | H32.3 | | | | | | | | | | |